

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が141例(男性65例(10歳代5例, 20歳代10例, 30歳代7例, 40歳代8例, 50歳代10例, 60歳代8例, 70歳代9例, 80歳代5例, 90歳代1例, 年齢非公開2例), 女性75例(10歳代5例, 20歳代22例, 30歳代5例, 40歳代7例, 50歳代6例, 60歳代5例, 70歳代6例, 80歳代11例, 90歳代7例, 年齢非公開1例), 未就学児1例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は1,756例となりました。

本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。

○新型コロナウイルス感染症 最新の動向

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(40歳代男性)ありました。症状は咳嗽・肺炎です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は13例となりました。

- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(80歳代男性)(第46週追加報告分)ありました。症状は発熱, 意識障害, 項部硬直, 菌血症です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は22例となりました。

京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。

○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期的予防接種について(医療衛生企画課ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>

- 百日咳の報告が1例(30歳代女性)あり, 症状は持続する咳, ウーブです。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は17例となりました。

- インフルエンザは, 市内69の定点医療機関からの報告は1例のみです。現状では全国及び京都市で流行の兆しは見られませんが, 流行に備えて予防を心がけましょう。予防策としては, 手洗い, うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。

京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください

○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

世界保健機関(WHO)は後天性免疫不全症候群(AIDS/エイズ)の蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に, 毎年12月1日を「世界エイズデー」に制定し, 世界各国でAIDSに関する啓発活動を行っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 5例(肺結核 2例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 230例(肺結核 104例, その他結核 50例, 潜在性結核感染者 76例)うち喀痰塗抹陽性 48例】
- 指定感染症: 新型コロナウイルス感染症 141例【1月以降の累積報告数 1,756例】
男, 65例(10歳代5例, 20歳代10例, 30歳代7例, 40歳代8例, 50歳代10例, 60歳代8例, 70歳代9例, 80歳代5例, 90歳代1例, 年齢非公開2例)
女, 75例(10歳代5例, 20歳代22例, 30歳代5例, 40歳代7例, 50歳代6例, 60歳代5例, 70歳代6例, 80歳代11例, 90歳代7例, 年齢非公開1例)
未就学児, 1例(年齢性別非公開)
- 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 13例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 22例】
- 五類: 百日咳 1例【1月以降の累積報告数 17例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1. 30	56
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 74	32
	③ 水痘	0. 35	15
	③ 突発性発しん	0. 35	15
	⑤ 咽頭結膜熱	0. 16	7
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

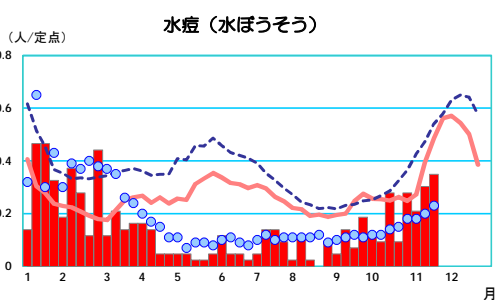
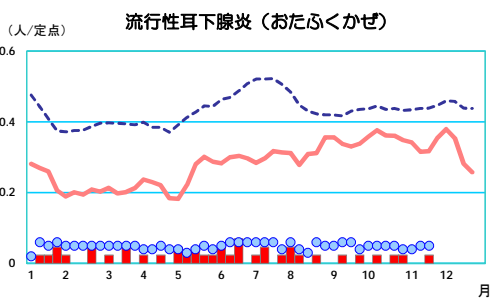
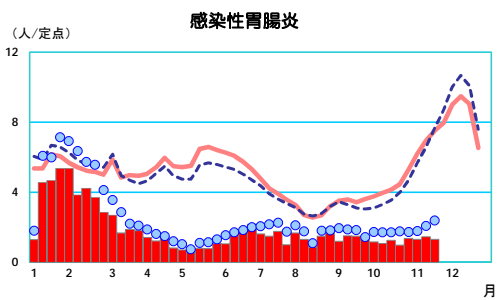
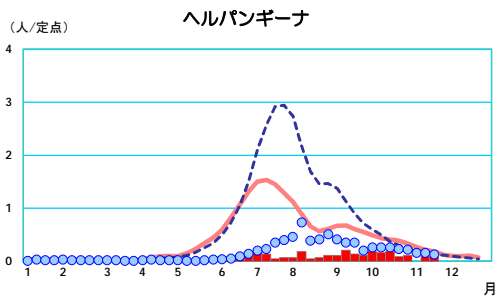
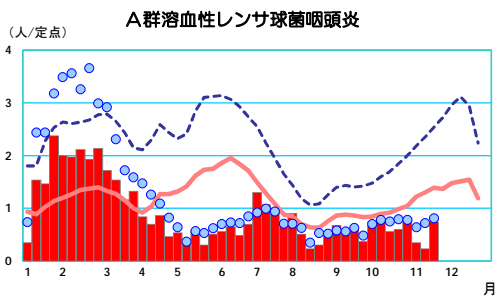
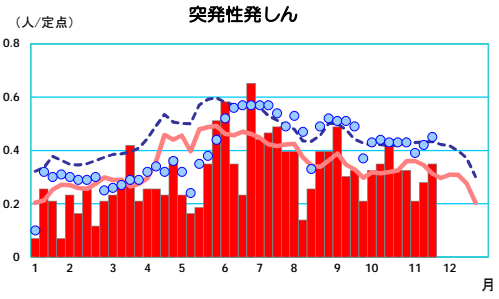
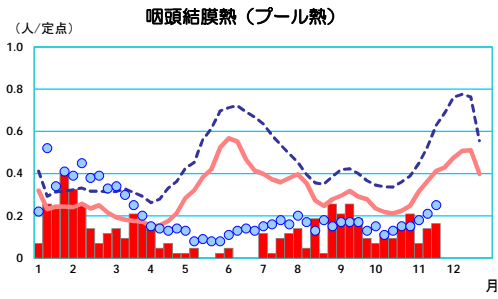
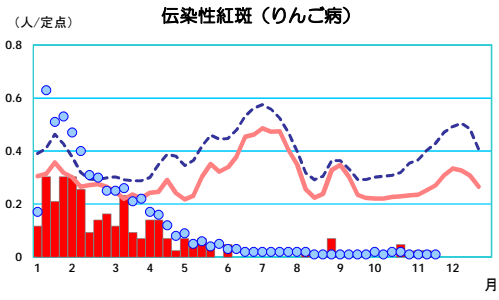
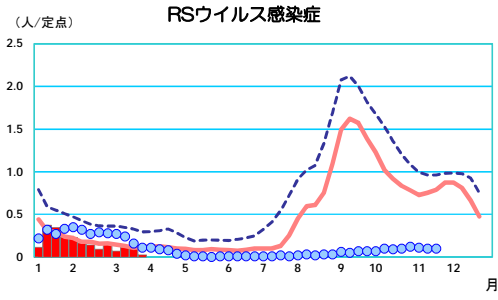
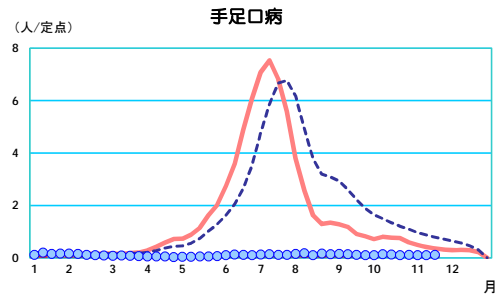
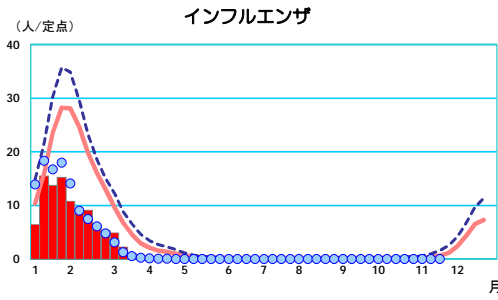
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年11月25日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

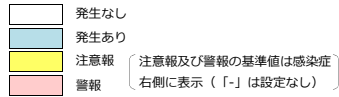
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

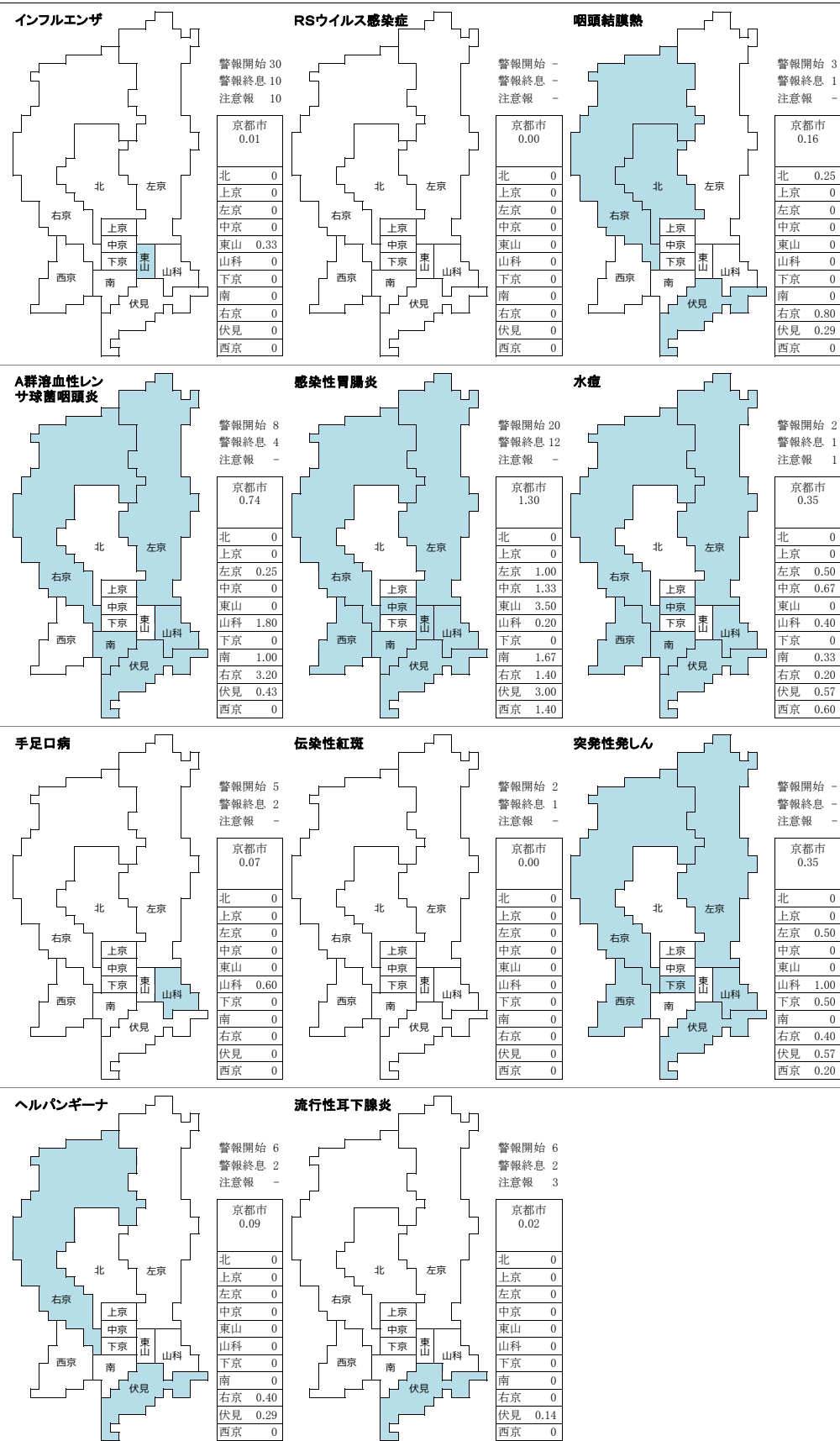
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第47週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第47週(11月16日～11月22日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

世界保健機関(WHO)は後天性免疫不全症候群(AIDS/エイズ)の蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、毎年12月1日を「世界エイズデー」に制定し、世界各国でAIDSに関する啓発活動を行っています。

AIDSはレトロウイルス科レンチウイルス属のヒト免疫不全ウイルス(HIV)を原因とする感染症です。感染経路は性的接触や母子感染(胎盤や産道, 母乳を介するもの)の他, 輸血や注射器の使い回し等であり, HIVを含む血液や体液が粘膜や傷口から直接体内に入らない限りは感染しません。なお, 涙や唾液等にはほぼウイルスが存在せず, HIVは環境中で速やかに壊れてしまうため, 風呂やタオルの共用によって感染した事例は知られていません。

HIVに感染すると, 感染初期には急速にHIVが増殖し, 発熱や筋肉痛, リンパ節が腫れる等インフルエンザに近い症状が出ることもあります。その後, HIVはCD4陽性リンパ球(*1)を壊しながら増殖しますが, 急性期を過ぎるとCD4陽性リンパ球の増殖とつりあうため, 表面上は症状がない無症候期に入ります。しかし, この間にもHIVはCD4陽性リンパ球を壊し続けてゆき, 数年から10年ほどの長時間を経て, やがてCD4陽性リンパ球は枯渇してしまいます。このリンパ球は他の抗体を作ったり異物(*2)を攻撃したりする別のリンパ球の働きを調節しているため, 枯渇すると免疫系全体が正常に働かなくなってしまう, 普通は病気を起こさないような弱い病原体でも発症したり, 通常できないような腫瘍ができるようになります。この状態のことをAIDSといいます。

もちろん, 体はHIVに対する抗体を作って攻撃しますが, HIVは極めて変異しやすく, すぐ抗体が効かないよう変異して免疫を回避してしまいます。そのため, 現在でもHIVのワクチンとして認可されたものはありませんが, HIVの増殖を抑制する治療薬や治療法が開発されています。現在では, HIVに感染しても適切な治療を受けることで, AIDSの発症を抑えられるようになりました。また, 早期に治療を開始したHIV患者の平均余命は平均寿命とほぼ同じといわれており, 治療によりHIVが検出できない程度に抑えられている患者はHIVを感染させないとされています。このように, かつての「死に至る病」というイメージは過去のものになっており, HIVに関する正しい知識の普及と早期の診断・治療が, 感染拡大防止や患者の方の生活の質の向上に繋がります。

ここで, 全国におけるAIDSの新規報告件数の推移を見ると, 平成20年まで増加を続けていましたが, 平成21～26年には年間約1,500件程度で横ばい状態となり, 平成27年以降は毎年微減し, 令和元年にはHIV感染者(*3)が903件, AIDS患者(*4)が333件で, 両者を合わせて1,236件となっています(図1棒グラフ)。一方, 京都市は令和元年のHIV感染者が12件, AIDS患者が3件の合わせて15件となっています。また, 本年は第47週まででHIV感染者が5件, AIDS患者が6件の合わせて11件となっており, 平成15年頃から概ね10～25件の範囲で増減を繰り返して推移しています(図2棒グラフ)。また, 全国では平成18年頃からAIDS割合(AIDSを発症してから診断される割合)が30%前後で安定している一方で, 京都市では30%を越す年も多く, 本年は暫定値ですが50%を超過しています(図1, 2折れ線グラフ)。

京都市ではHIV検査を匿名かつ無料で受けることができます。本年は4月より新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止していましたが, 7月より予約制にて一部再開しています。AIDSは早期診断がその後の生活の質を大きく向上させるうえ, 本年はAIDS割合が過去最高となる恐れがありますので, 不安がある方は早めに検査を受けましょう。ただし, 現在は発熱や風邪症状のある方, 健康観察を受けている方は検査を見合わせていただいております。詳細につきましては, 下記のホームページをご覧ください。

○京都市ホームページ「京都市のHIV検査について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

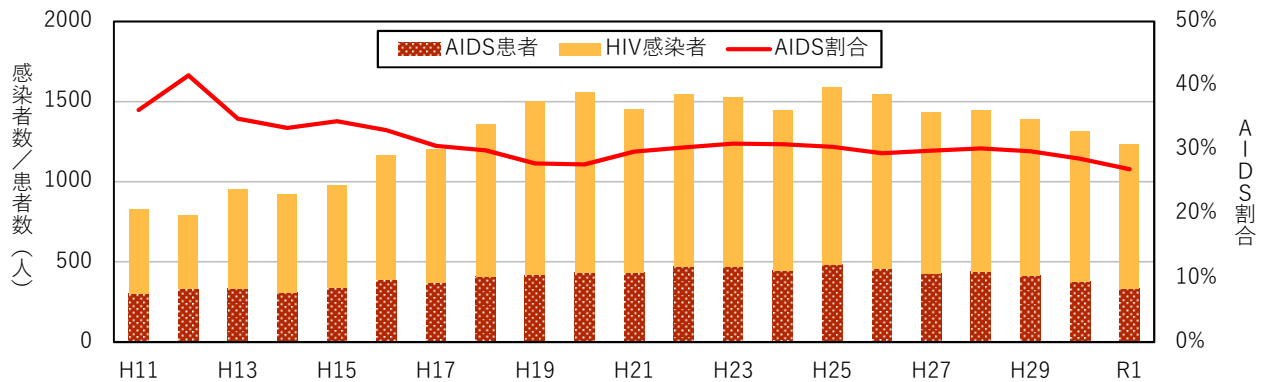


図1. 全国の新規HIV感染者及びAIDS患者の年次推移(令和元年まで) (*5)

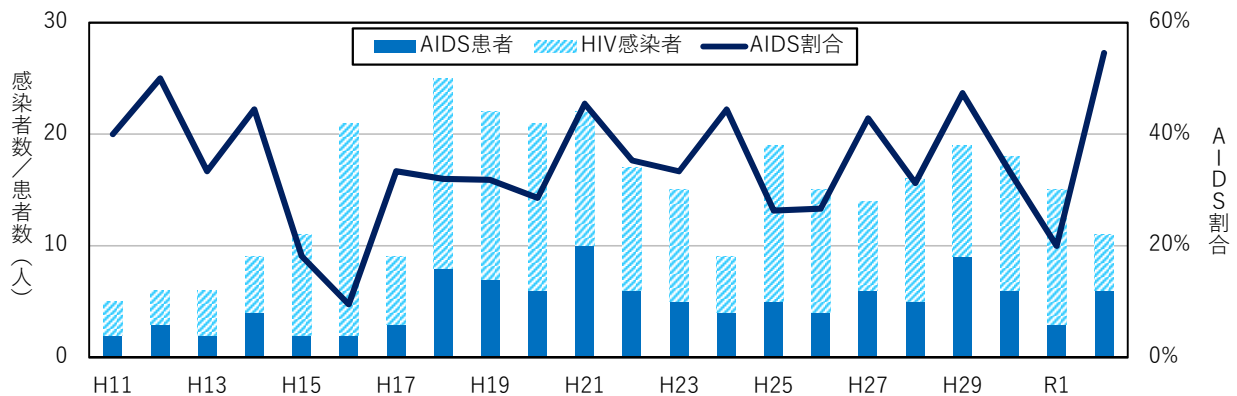


図2. 京都市の新規HIV感染者及びAIDS患者の年次推移(令和2年第47週まで)

本文は次のウェブサイトを参考に作成した(以下, すべて令和2年11月25日閲覧)。

○国立感染症研究所ホームページ「AIDS(後天性免疫不全症候群)とは」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>)

(*1)「ヘルパーT細胞」や「制御性T細胞」等, いくつかのリンパ球の集団を含む。

(*2) 体内では毎日多数の腫瘍細胞が発生しているが, これをリンパ球は異物と認識して常に排除している。免疫機能が正常に働いていれば, こうした毎日できる腫瘍は目で見えるサイズになる前に排除される。

(*3) このHIV感染者とは, HIVに感染し, 無症候性キャリアとして報告されたもの, または何らかの症状はあるがAIDSの診断基準を満たさないものをいう。

(*4) このAIDS患者とは, AIDSと診断されて発生が届けられたものをいう。(すでにHIV感染者として報告されているものがAIDSを発症する等病状に変化を生じた場合は除く)。

(*5) API-Net エイズ予防対策ネット「令和元(2019)年エイズ発生動向年報」を基に作成した。

(<https://api-net/jap.or.jp/status/japan/nenpo.html>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第47週

疾病,行政区別報告数

2020年11月16日～2020年11月22日

データ入手日:2020年11月25日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	1	4	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東山	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	9	1	2	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	3	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	4	16	7	1	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	2	3	21	4	-	-	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	7	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	1	-	7	32	56	15	3	-	15	4	1	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.25	1.00	0.50	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1.33	0.67	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-
東山	0.33	-	-	-	3.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.80	0.20	0.40	0.60	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1.00	1.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	0.80	3.20	1.40	0.20	-	-	0.40	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.29	0.43	3.00	0.57	-	-	0.57	0.29	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	1.40	0.60	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	0.01	-	0.16	0.74	1.30	0.35	0.07	-	0.35	0.09	0.02	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第47週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年11月16日～2020年11月22日

データ入手日:2020年11月25日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
RSウイルス感染症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		7	-	-	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32	-	4	3	7	1	3	1	1	3	1	2	2	1	3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		56	-	4	10	3	4	6	7	-	-	2	2	6	3	9	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢3	15	-	-	2	1	2	3	2	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		15	-	4	9	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		4	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-
RSウイルス感染症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.16	-	-	0.09	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.74	-	0.09	0.07	0.16	0.02	0.07	0.02	0.02	0.07	0.02	0.05	0.05	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.30	-	0.09	0.23	0.07	0.09	0.14	0.16	-	-	0.05	0.05	0.14	0.07	0.21	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢3	0.35	-	-	0.05	0.02	0.05	0.07	0.05	0.07	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.07	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.35	-	0.09	0.21	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.09	-	-	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第47週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年11月25日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	1	-	-	-	1
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	6	9	3	6	7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	26	35	15	10	32
感染性胃腸炎	54	42	58	56	62	56
水痘	12	4	12	9	13	15
手足口病	1	-	-	3	7	3
伝染性紅斑	-	2	-	1	1	-
突発性発しん	19	14	14	9	12	15
ヘルパンギーナ	8	4	5	-	4	4
流行性耳下腺炎	-	1	1	-	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	-	-	1	1
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	122	101	134	96	116	135

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	0.01	-	-	-	0.01
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.09	0.14	0.21	0.07	0.14	0.16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	0.60	0.81	0.35	0.23	0.74
感染性胃腸炎	1.26	0.98	1.35	1.30	1.44	1.30
水痘	0.28	0.09	0.28	0.21	0.30	0.35
手足口病	0.02	-	-	0.07	0.16	0.07
伝染性紅斑	-	0.05	-	0.02	0.02	-
突発性発しん	0.44	0.33	0.33	0.21	0.28	0.35
ヘルパンギーナ	0.19	0.09	0.12	-	0.09	0.09
流行性耳下腺炎	-	0.02	0.02	-	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	-	-	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.84	2.42	3.12	2.23	2.77	3.21

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。